

新規就農の取り組み

むかわ町産業振興課
農政グループ
主任 飛岡 雅幸



新規就農者も施設野菜に取り組んでいます。

むかわ町の新規就農の取組みは、合併前にさかのぼります。旧鶴川町では、さまざまな形で農業体験の受け入れなどを行っていました。そのような

はじめに



研修生の集合写真

むかわ町は北海道の胆振管内東部に位置し、町の中央に一級河川「鶴川」が流れ、肥沃な大地と緑豊かな自然に恵まれた農業を基幹とする町です。平成18年3月に「鶴川町」と「穂別町」が合併し「むかわ町」が誕生しました。

むかわ町の基幹産業は、第1次産業の農業が中核的な位置にあり、恵まれた水利条件を生かし水田農業を古くから展開しており、近年では野菜、メロン、花き、肉牛などを取り入れた水稻との複合経営が定着しています。

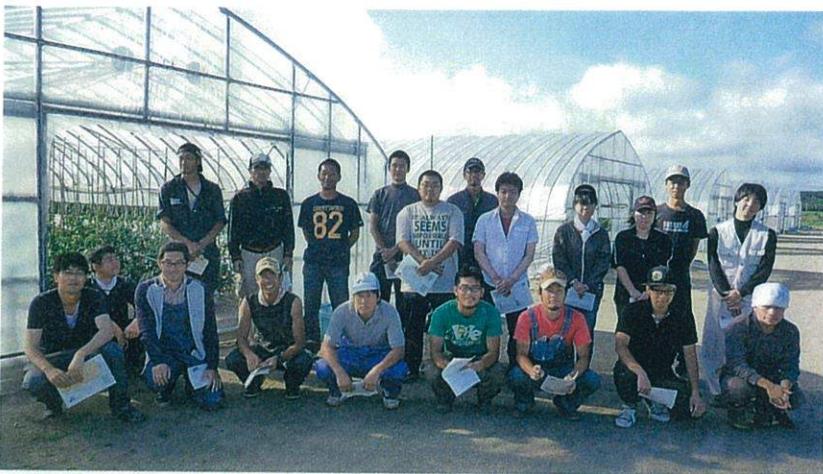
中でも、夏冷涼で冬の降雪が少ない気象条件を生かして、夏秋トマト、春レタス、ニラ、ホウレンソウなどを組み合わせ、年間を通じて施設野菜の生産が行われており、

中、農業者の意見から新規就農に向けた農業体験生や研修生を積極的に受け入れる組織と等受入協議会」を平成17年3月に立ち上げました。会員は30人を超える農家の方が会員になり、農業を志す青年など

当初10数人でしたが、現在は月を超える農家の方が会員になりました。農業を志す青年など

30人を超える農家の方が会員になり、農業を志す青年など

月を超える農家の方が会員になりました。農業を志す青年など



農業講習会 現地講習



研修農場での作業風景



研修農場全景



農業講習会の風景

進地を数カ所の視察を行い協議を重ねました。

平成22年6月に、本町農業の継続的な発展と農業担い手対策の総合的な推進を図るために、町内の関係機関・団体による「むかわ町地域担い手育成センター」を設立しました。その一つの取組みとして、新規就農希望者の研修施設である、鶴川研修農場（通称・豊城ファーム）を設置しました。

豊城ファームは、市街地から約2km離れたJAむかわの共同育苗施設の隣地に設置されました。豊城ファームには、100坪ハウスが8棟設置されており、年間を通じトマト、レタス、ニラなどを作付けしています。実際の栽培に必要なトラクターや軽トラック、

灌水施設が整備されており、研修生は、作付けから、管理、収穫、出荷まで、一連の作業を実践的に研修することができます。

豊城ファームに入れる研修生は2人となっており、町内の農家で一定期間農業体験を行い、独立就農をめざす者が、関係機関の審査の末、入ることができます。研修中は、担い手センターが用意している住宅に住み、研修助成金の交付を目指し研修します。

栽培に関する技術指導は、指導農業士をはじめJAむかわ蔬菜振興会の各部会長が担つて、担当手センターが用意している住宅に住み、研修助成金の交付を受けながら独立を目指し研修します。

農業者が相談に乗っています。平成22年に担い手センターを設立以降、豊城ファームで地元の農業者とのコミュニケーションを深める場としてAむかわを通して出荷し、それが意義深いものがあります。

実際に栽培した生産物はJAむかわを通して出荷し、そこも意義深いものがあります。Aむかわを通して出荷し、その後に運営費になるほか、一部は研修生に特別助成金として交付していることもあります。研修生の励みになっています。

就農支援の取組み

豊城ファームで研修したあとはむかわ町での独立就農になりますが、町では就農地を確保しているわけではありません。本人の希望を最優先に考え、就農場所の候補地を絞り、関係機関と協議しながら就農地を決めていきます。就農にあたっては、担い手センターはじめ町内の関係機関や地元

農業の担い手不足が課題となっていた地域にとっては、新規就農者の活躍が既存農家の刺激になっており、良い相乗効果を生んでいます。これは、強い意志を持つ農業者に真摯に取り組む研修生の姿支援をし、それに研修生や新規就農者が応えていく結果と考えています。

今後も地域農業の担い手を育成する取組みとして、関係機関団体と農業者一体となって推進していくことを考えて

と面談し、受け入れする農家と定期的に協議会役員や事務局ともに学んでいます。また、長期体験期間中にはと農業後継者や新規就農者とばかりに農業見学などを行っています。

受入協議会の取組み